

# いっしょに考える まちづくり

池袋本町防災まちづくりの会では、現在の委員の任期切れに伴い、新しい委員の募集を行います。

会は町会の代表者と公募委員で構成されています。会には、水利、道路、救援救護、防災センター、広報の5つの部会があり、それぞれの部会が専門的な検討を行い、全体会でそれを協議するというかたちで進められています。

今年は、J R職員住宅跡地の検討会が始まります。防災まちづくりの会からも、検討会に参加していっしょに検討するグループと、会独自に検討しなければならないことを考えるグループができることになると思います。防災まちづくりの会に参加すると、このようなまちづくりの最先端で、地域の方々といっしょにまちづくりについて考え、それを実現することができます。

興味やご意見をお持ちの方は是非ご参加ください。

- 参加資格 池袋本町地区（池袋本町一～四丁目）で、土地や建物を持っている方、お住まいの方、営業している方
- 募集人数 20名程度  
※応募者が多数の場合は抽選とさせていただきます
- 締め切り 平成12年4月28日  
(当日消印有効)
- 申込方法 郵便またはFAXで、街づくり公社にお申し込みください。そのさい下記の必要事項をお知らせください。
- 必要事項 住所・氏名・年齢・電話番号・職業・性別・参加される動機
- 申込先 電話 3981-1683  
FAX 5992-6099  
豊島区東池袋1-39-2

## まちの歴史

# 池二小

今から82年前、大正7年に豊島郡第二巢鴨尋常小学校ができて、池二小の歴史は始まりました。最初は、現在の池五小のある所に校舎がありました。当時の児童数は452名、8学級での開校でした。

池二小は、昭和初期には7年間で5回名前が変わっています。昭和3年には豊島郡西巢鴨第二尋常小学校。昭和6年には高等科がおかれ豊島郡西巢鴨第二尋常高等小学校。翌年、昭和7年には豊島区が誕生して東京市の一部となり東京市西巢鴨第二尋常高等小学校。さらに昭和9年に高等科が現在の池二小の場所に開かれて西巢鴨尋常小学校にもどり、翌昭和10年に池袋第二小学校となりました。戦争中に東京市池袋第二国民学校と呼ばれ、戦後に東京都豊島区立池袋第二小学校と呼ばれるまで、7回も名前が変わったこととなります。時代の流れとは言え、激動の昭和初期を象徴しているようです。

池二小は、今の池五小の場所で開校しましたが、空襲で校舎は焼かれてしまいました。そこで豊島第一高等小学校の跡地、つまり今の池二小の場所にバラックの校舎を建てて授業を再開しました。

昭和22年には池四、池六小を統合して現在の池二小になり新校舎も建てられました。しかし、児童が増えて教室が足りないため、二部授業や重ん寺のお寺を借りて勉強をしました。昭和28年には600名の児童が新しくできた文成小へ移っています。

昭和22年に建てられた校舎は、31年に10教室と図書館が増築され、東京オリンピックの年(39年)に鉄筋コンクリート造の講堂兼体育館が作られました。そして49年には木造校舎を取り壊して新校舎が落成し今の姿になりました。

懐かしい木造校舎の写真を見ると、そこで学び遊んだ児童の元気な顔が思い浮かぶようです。



# 池袋本町 防災まちづくり ニュース

池袋本町  
防災まちづくり  
ニュース  
no. 17  
豊島区広報印刷物 H20-11-153  
平成12年3月27日発行

発行:池袋本町防災まちづくりの会  
豊島区まちづくり推進課  
問い合わせ先:  
(財)豊島区街づくり公社  
TEL 03-3981-1683  
編集協力:(株)エコライン

## J R職員住宅跡地 13名が応募 検討会発足へ

### たくさんの応募

1月にこのまちづくりニュースで募集したJ R職員住宅跡地検討会の公募には、13名の方からご応募をいただきました。ご協力いただいた皆様にご挨拶申し上げます。ご応募いただいたのは一丁目と四丁目の方が多いものの池袋本町全域にわたっています。年齢は30代～70代まで幅広く50代がもっとも多く、男性9人、女性4人の応募がありました。

この検討会は、公募委員の他に町会の代表、学校関係者(学校とPTA)、防災まちづくりの会の有志が参加します。総勢40～50人の検討会になる予定です。検討会は、学校が新年度に職員やPTA役員の交代があるため、実際の活動は4月からになります。

### 本町始まって以来

このJ R職員住宅跡地の整備は、池袋本町始まって以来の大事業だという声も出ています。それだけにこの跡地整備にかかる期待は大きく、また反面、様々な不安も指摘されています。そのため、できるだけたくさんの方々のご意見を集めて、住民にとって有効な跡地利用を検討したいと考えてます。

防災まちづくりの会では、これまで跡地について検討を行ってきましたが、より広く、開かれた形で議論すべきとの考えから検討会を開催し、まちづくりの会もその一員として参加することにしました。まずは参加者が同じスタートラインから検討を始められるように、見学会や勉強会を行い、その後具体的な話し合いを行うことになると思います。会の活動内容についてはできる限りまちづくりニュースでご紹介してまいります。

### 二人三脚の検討

防災まちづくりの会には、防災センター部会や救援救護部会という組織があり、それぞれJ R職員住宅跡地の活用方法について検討を行ってきました。今回、検討会が発足するにあたり、会では、これまで検討してきた内容を活かしながら、二人三脚で跡地の検討を進めたいと考えています。

検討会では、主に跡地の整備などのハード面を検討し、まちづくりの会では、防災センターの運用などソフト面を検討したいと考えています。

検討会と防災まちづくりの会の両方に所属する委員が何人もいるので、2つの会の意思疎通をうまく行いながら進めていきたいと考えています。

つれづれに一言  
日頃から、震災時支援ボランティア、市民消火隊、町会の各行事に参加して、災害に強いまちづくりの必要性を強く感じています。たの、防災まちづくりの会には、公募で参加し、発会当初より出席していました。  
この会は本町全域からの参加者のため、個々の考え・主張が分かるのは当然です。その間の調整は実に難しく、多くの人に理解を得て、案がまとまり、実現に至るには半の歩みの如く日時を必要とします。  
しかし、震災の際には危険度の高い地域でもあるため、災害に強いまちづくりが早急に望まれる現状もあります。「備えあれば憂いなし」の諺どおり、期待に沿ったまちづくりはできつつあるのだろうか、できるのだろうか? 自問自答し、震災が起きないことを祈りつつ、災害に強いまちづくりの一日も早い実現を目指し、参加し協力していこうと思っています。  
(神原)